

授業実践例（令和3年度 第1学年）

1 単元名 がっこうとなかよし「ちよだしょうがっこうとなかよし」

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、生活科学習指導要領の学年の目標（2）、内容（1）（4）（8）

目標（2）身近な人々、社会及び自然とふれ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。

内容（1）学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。

（4）公共物や公共施設を利用し、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用しようとする。

（8）自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。

に基づいて設定したものである。

本単元では、2年生から紹介してもらった学校の施設を探検する活動を通して、学校の人と交流するよさがわかり、学校生活を安心して過ごすことができるものである。

また、活動の中で「もっと、学校のことを知りたいな。」「もっと、たくさんの友達をつくりたいな。」という思いや願いを達成していく楽しさを味わわせながら、活動への意欲を高めることができる単元である。

(2) 児童の実態

児童は、入学して約2か月が経ち、学校生活に慣れてきた。出身幼稚園・保育園の友達から少しずつ新しい友達を増やしている。また、普段の生活の殆どは、教室や昇降口がある本校舎の1階で過ごし、本校舎の2階、3階やプレハブ校舎で過ごすことは少ない。

他学年との交流では、6年生に補助に入ってもらったり、2年生と運動会をしたり、休み時間に上級生に遊んでもらったりしてきた。感染症予防のためリモートで行われた1年生を迎える会と学校紹介では、2年生にアサガオの種をプレゼントしてもらうことで「自分も育ててみたい。」という気持ちや、学校紹介をしてもらうことで「学校を探検したい。」という気持ちが高まっている。この単元を通して、さらに2年生と関わることで、活動への意欲を高めていきたい。また、伝え合う活動を通して、学校の人と交流するよさを味わわせたい。

(3) 指導観

導入では、2年生の学校紹介をリモートで見ること、行ってみたい場所や知りたいことを話し合わせる。知らない場所があることに気付くところから「学校にはどんな場所があるのか知りたい。」という児童の思いや願いを引き出したい。そうすることで、児童は学校に強い興味をもち、意欲的に取り組むだろう。活動では、探検する場所で目や耳、手などの感覚を使って調べたり、教室の先生と交流したり、タブレットで写真を撮ったりすることで、自分だけの発見を「ひみつ」として見つめられるようにしていきたい。

研究主題の「協働し交流する活動を通し、気付きの質を高める生活科」を達成できるように、自分が見つけた学校の「ひみつ」を教え合ったり、友達が見つけたことを互いに認め合ったりする活動を設定し、自分の発見のよさや成長に気付かせるようにしていきたいと考える。それによって、伝えることの楽しさを実感させていきたい。

3 単元目標

○学校での生活は様々な人や施設とかがかかわっていることに気付くことができる。

(知識及び技能の基礎)

○学校の施設の利用や先生や友達とのかかわりについて振り返り、自分なりの方法で表わすことができる。

(思考力、判断力、表現力等の基礎)

○学校生活を楽しく過ごしたいという思いや願いをもって、進んで友達や先生と交流しようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

4 仮説との関わり

仮説1

他者と協働し、伝え合う活動の場を工夫して設定すれば、豊かな対話のある学びができ、気付きの質が高まるだろう。



学年の友達同士で発見したことをリモートで伝え合う場を設定することで、児童が分かったことや思いを伝え合ったり、感想や質問をもらったりする対話のある学びができるだろう。そして、その対話によって、自分の発見や友達の発見のよさに気付き、深めることができるだろうと考えた。

仮説2

一人一人が気付いたことを伝え合い、関係付ける活動をすれば、新たな気付きが生まれ、気付きの質が高まるだろう。

学校探検をして気付いたことを伝え合う中で、学校のことに詳しくなった自分に気付くことができるだろう。また、単元の最後で2年生にお礼の手紙を書く活動を行うことで、気付きを深めていくことができるだろうと考えた。

5 指導と評価の様子（10時間扱い）

時配	学習活動 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">仮説との関わり</div>	評価基準（評価の観点） 【評価方法】
<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p>	<p>「ちよだしょうがっこうとなかよし」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生に学校を紹介してもらい、探検への意欲を高める。 ・学校探検で行きたい場所ややってみたいことを選ぶ。 ・グループにわかれて、探検の約束、準備、探検するポイントについて話し合う。 <div style="text-align: center;">  <p>2年生の発表を聞いている様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ハンドサインを活用している様子</p> </div>	<p>・学校にはまだ知らない場所があることに気付いている。(知・技)【発言・行動観察】</p> <p>手立て④：他学年との交流学习〈仮説1〉</p> <p>手立て③：ハンドサインの活用〈仮説1〉</p> <p>手立て⑤：考えを伝え合う場と方法の工夫 〈仮説2〉</p> <p>手立て③：ワークシートの工夫〈仮説2〉</p> <p>・行きたい場所ややってみたいことを選んでいいる。(思・判・表)【ワークシート】</p> <p>・自分の思いや願いをもって、学校探検の計画を立てようとしている。 (態度)【行動観察・ワークシート】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(ひか)しつ) なにかあるの? なんねんせいがかう かん? かん?</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(ほうせう)しつ) さかいが"あるの?"</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>行きたい場所や気になることを書いたワークシート</p> </div>

仮説1：2年生とリモートで交流することで、学校にはまだ知らない場所があることに気が付き、関心を高めることができた。また、2年生のように発表してみたいという気持ちをもつことができた。ハンドサインを活用し、2年生に自分の意思を表したり、クイズに参加したりするなど、豊かな対話のある活動ができた。

仮説2：リモートで2年生に感想や質問を伝え、対話のある学びをすることができた。2年生の発表に関係付け、ワークシートに行きたい場所や気になることを書き、学校探検の計画を行うことで、新たな気付きが生まれた。

- 4 ・グループごとに学校探検をする。
- 5 ・学校探検で見つけた「ひみつ」や気付いたこと
秘密発見カードにまとめる。
- 6 ・発表したいことを「ひみつ発表カード」に書
き、発表の練習をする。
- 7



探検をしている様子



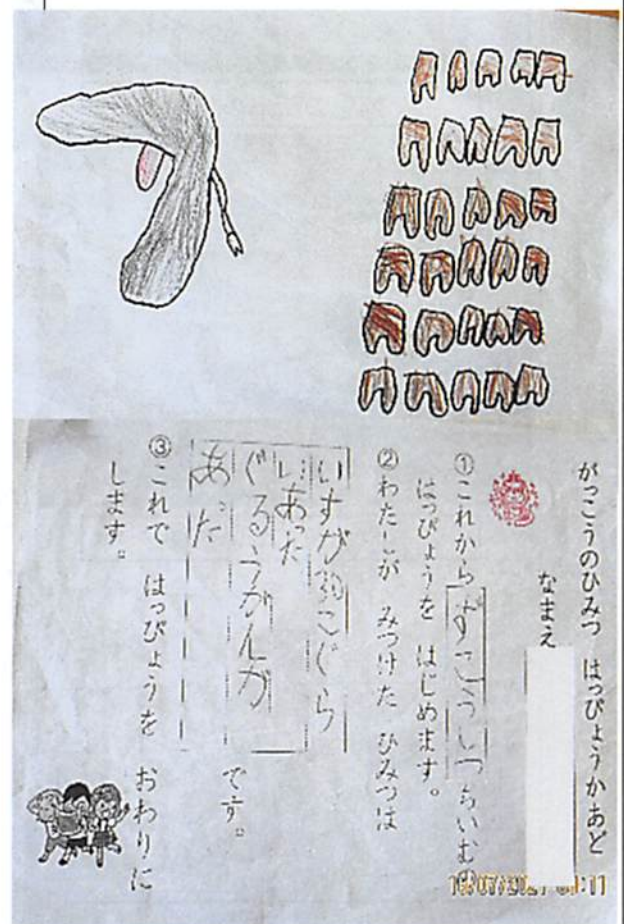
伝えたいことを選んでいる様子

手立て①：個に応じた手立て，声かけ
〈仮説2〉

手立て⑥：グループ学習〈仮説2〉

- ・学校の施設の位置や特徴とその役割に気
付けている。（知・技）【発表カード】
- ・友達に伝えたいことを選んでいる。
（思・判・表）【発表カード・行動観察】
- ・グループの友達と協力しながら，発見した
ことを伝えようとしている。

（態度）【発言・行動観察】

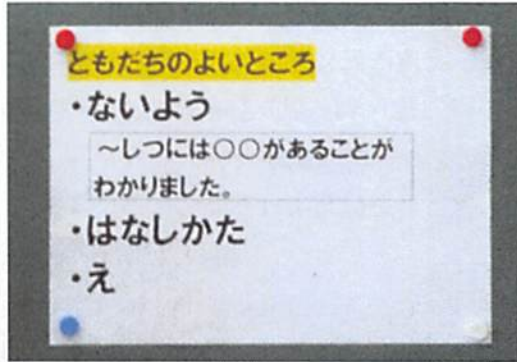


ひみつ発表カード

仮説2：学校探検では，個に応じた手立てをすることができた。目や耳，手などの感覚を使って調べたり，教室の先生と交流したり，タブレットで写真を撮ったりするなど，児童に応じて調べ方を選択できるようにした。探検後は，友達に伝えたいことをグループで話し合った。自分の気づきを伝え，友達の気づきを知ることで，全体で気づきを共有し，深めることができた。

本時

- 8 ・発見した「ひみつ」をリモートで紹介し合う。
- 9 ・振り返りを行う。
- 10 ・2年生にお礼の手紙を書く。



感想の話形の掲示



感想を伝えている様子

2ねんせいのみなさんへ
 がっこうのことが
 よくわかりました。
 いっしょにあそんでください。
 より

2年生への手紙

手立て②：対話の話型の揭示〈仮説1〉

手立て⑤：考えを伝え合う場と方法の工夫

〈仮説2〉

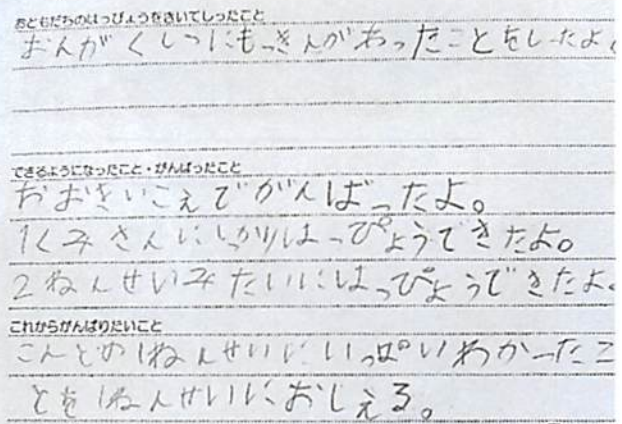
手立て④：振り返りカードの工夫〈仮説2〉

・学校での生活は様々な人や施設とかかわっていることに気付いている。

(知・技)【振り返りカード】

・学校のよいところや発見を、友達と伝え合っている。(思・判・表)【発言・行動観察】

・学校生活を楽しく過ごしたいという思いや願いをもって、進んで友達と交流しようとしている。(態度)【発言・行動観察】



振り返りカード

仮説1：「ひみつ発表カード」や感想には話型を示して、自分の思いや願いを伝えられるようにした。発表することが苦手な児童も大きな声で発表することができた。また、単元の最後に2年生へお礼の手紙を書く活動を行うことで、気付きを深めることができた。

仮説2：他の学級にリモートで発表し、感想を伝えることができた。振り返りカードでは、分かったこと、できるようになったこと、これから頑張りたいことの3観点に絞ることで、新たな気付きが得られ、2年生のように発表することができたという達成感を味わうことができた。

6 本時の指導の様子（8 / 10）

(1) 評価規準

学校のよいところや発見を、友達と伝え合っている。

(思考力, 判断力, 表現力等)

(2) 仮説との関わり

発見したことを伝え合う活動を通して、友達に感想をもらうことで新たな気付きや対話が生まれ気付きの質が高まるだろう。自分の発見や友達の発見のよさに気付くことができるだろう。

(3) 展開

時配 (分)	学習内容と活動	○指導・支援 ◎評価	資料
※40 分授業	※感染症対策のため、全授業時間が40分である。		
2	<p>【見出す】</p> <p>1 本時の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>ちよだしょうがっこうのひみつをしょうかいしよう。</p> </div>	<p>○これまでの学習を振り返り、今日のめあてを意識して活動できるようにする。</p>	
30	<p>【広げ深める】</p> <p>2 発見したことを発表し、友達から感想をもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長室チーム ・職員室チーム ・音楽室チーム ・図工室チーム ・放送室チーム ・図書室チーム ・保健室チーム ・体育館チーム ・家庭科室チーム ・理科室チーム 	<p>○感染症予防を配慮し、リモートで伝える。「Teams」を用いる。</p> <p>○グループごとに説明をしたり、絵をテレビで見せたりして紹介する。感想をリモートで伝える。〈仮説2〉</p> <p><u>手立て⑤：考えを伝え合う場と方法の工夫〈仮説2〉</u></p> <p>○友達に感想をもらったり、よいところ（内容、声の大きさ、絵）を教えてもらったりして、分かりやすく伝えられたか確認する。（仮説1）</p> <p><u>手立て②：対話の話型の揭示〈仮説1〉</u></p> <p>◎学校のよいところや発見を、友達と伝え合っている。</p> <p>(思考力, 判断力, 表現力等)</p> <p>【発言・行動観察】</p> <p>・声が小さかったり、自分の表現方法で話せなかったりしている児童には、大きな声が出るように励まし、スムーズに話せるまで、教師が問いかけながら一緒に話す。</p>	<p>発表カード, 大型テレビ, 話型</p>





理科室にはがいこつがあることが分かったよ。

絵がとても上手だね。

大きな声で発表できていてすごい。

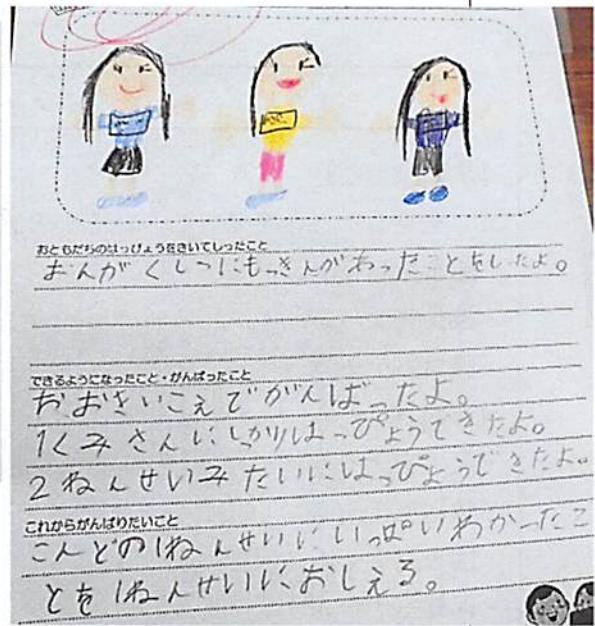
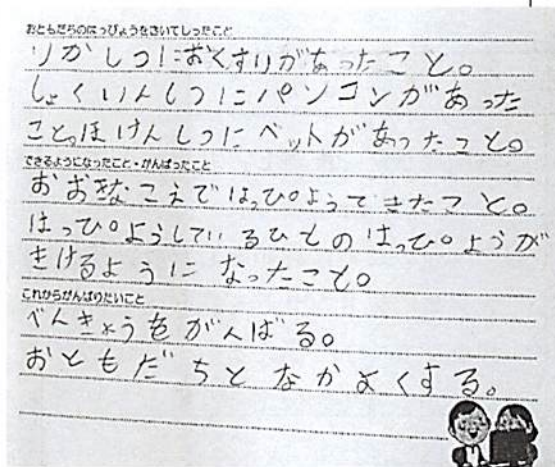
8 【まとめあげる】

3 めあてを振り返る。

発表でできたことや分かったことを確認する。

○分かったこと、できるようになったこと、これから頑張りたいことの3観点に絞り、学習の振り返りが円滑にできるようにする。

振り返りカード



7 成果と課題

- 2年生とリモートで交流することで、児童が学校探検への関心を高め、2年生のように発表してみたいという気持ちをもつことができていた。
- リモートの発表会をすることで、感染症予防を行いながら対話することができた。
- ハンドサインや話型を用いることで、児童が自分の思いや願いを伝えることができた。
- 振り返りカードを活用することで、児童が自分の発見のよさや成長に気付くことができていた。
- ▲2年生と直接会うことが難しいため、リモートや手紙の交流になった。主体的に関わることができるように、これからも交流を続けていきたい。
- ▲リモートの発表は、通常の発表よりも相手の反応を確認するのが難しく、集中力が切れてしまう児童の姿が見られた。伝え合う活動を繰り返し行い、聞く力を育てていく必要がある。

授業実践例（令和2年度 第1学年（参考））

1 単元名 あきとあそぼう 「あきまつりをしよう」

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、生活科学習指導要領の学年目標（2）、内容（5）（6）（8）

目標（2）身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気づき、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。

内容（5）身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることにも気づくとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。

（6）身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気づくとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

（8）自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。

に基づいて設定したものである。

(2) 児童の実態

児童は、入学式の後すぐに約2か月の休校になり、大きな行事を経験することができないまま、夏休みを終えた。友達や教員とも距離を保ちながら生活をしてきたので、本単元の活動は大きな経験となるだろう。三密にならないよう工夫しながら、活動の中で自然の美しさや仲間と共に遊ぶ楽しさに気付かせ、伝え合う活動を通して人と関わることのよさや楽しさを味わわせたい。

(3) 指導観

導入では、公園探検で探した秋の自然のものを使って、児童がやりたかった遊びを、「あきまつり」として実施することを提案する。児童が自分たちでお店をつくることに意欲的に取り組めるだろうと考えた。児童は、屋台のイメージをもちながら、いろいろな遊びのお店を考え、よりよいお店作りのために協働し、意見を交流させる。そうした上で、「あきまつり」を実施し、振り返りを充実させることで、気づきの質が高められるようにしたい。

3 単元の目標

○身近な幼児や友達とかかわることのよさや楽しさに気付くことができる。

(知識及び技能の基礎)

○身近な自然を使って遊びや遊びに使う物を工夫して作ることを通して、目的や相手を想像して伝えたいことや、伝え方を選ぶことができる。

(思考力、判断力、表現力等の基礎)

○思いや願いをもって、友達と楽しみながら遊びを創り出すことを通して、進んで交流しようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

4 仮説との関わり

仮説1

他者と協働し、伝え合う活動の場を工夫して設定すれば、豊かな対話のある学びができ、気付きの質が高まるだろう。

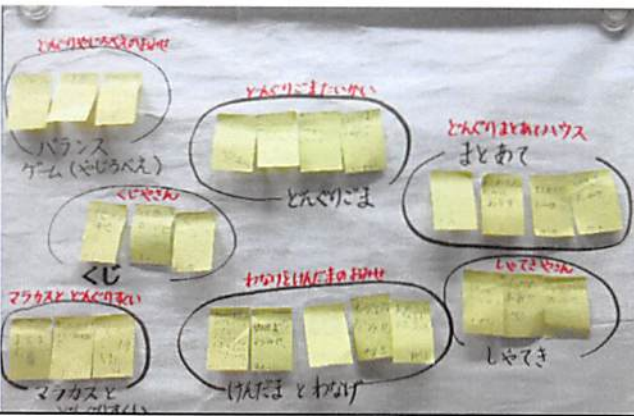
秋の自然を生かしてあそび方を工夫してあそび、その経験をもとにお店やさんごっこをする場を設定する。「あきまつり」としてあそびのお店やさんごっこをすることで、よりよいお店をめざして児童がお互いに考えを伝え合い、友達と関わりを深めて交流する楽しさや自分の成長に気づき、その質を高めることができるだろうと考えた。

仮説2




一人一人が気付いたことを伝え合い、関係付ける活動をすれば、新たな気づき生まれ、気付きの質が高まるだろう。

「あきまつり」を行う中で、気付いたことを伝え合い、それを比較したりまとめたりすることで、違いや同じ考えに気づき、よりよい工夫の仕方やあそび方に気付いて、さらに気付いたことを深められるだろうと考えた。

5 指導と評価の様子（10時間扱い）

時配	学習内容と学習活動	評価基準（評価の観点）【評価方法】
1	<p>あきとあそぼう「あきまつりをしよう」</p> <p>・「あきまつり」の計画を立てる。</p> 	<p>・友達と関わることの良さや楽しさが分かっている。</p> <p>(知・技)【付箋】</p> <p>・友達と楽しく交流できる仕方を考えている。(思・判・表)【発言】</p> <p>手立て①:児童の意識調査(仮説1)</p>

児童が「あきまつり」でやってみたいことをまとめたもの

<p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6 本時</p> <p>7</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにどんなお店にするか、遊びのルールを決める。 ・グループごとにお店の準備をする。  <div data-bbox="256 745 906 831" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どのようなお店にするかグループで考える様子</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・リハーサルを行い、助言し合ってよりよいお店作りをする。 ・助言をもとにお店作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の自然を使って、工夫して作品を作ったり、遊んだりしている。 (思・判・表)【お店のルール】 ・お店をよりよくするために、友達と交流しようとしている。 (態度)【行動観察】 <p>手立て⑥：グループ学習〈仮説2〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店をよりよくするための工夫を考えている。(思・判・表) 【アドバイスカード】 <p>手立て⑤：考えを伝え合う場と方法の工夫〈仮説2〉</p>
<p>8</p> <p>9</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あきまつりを行い、振り返りを行う。  <div data-bbox="240 1816 879 1899" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>あきまつりの様子</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長に気付いている。 (知・技)【振り返りカード】 <p>手立て③：ワークシートの工夫 〈仮説2〉</p> <p>手立て④：振り返りカードの工夫 〈仮説2〉</p> 

10	<p>・交流できなかった幼稚園の子どもたちにプレゼントを作る。</p>	<p>・幼児と進んで交流しようとしている。 (態度)【幼児への手紙】 <u>手立て④他学年との交流学习</u> <u>〈仮説1〉</u></p>
----	-------------------------------------	---

6 本時の指導の様子 (6 / 10)

(1) 評価規準

お店をよりよくするための工夫を考えている。(思考力・判断力・表現力等)

(2) 展開

時配 (分) ※40分 授業	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
2	<p>【見出す】</p> <p>1 本時の学習のめあてを確認する。</p>	<p>○これまでの学習を振り返り、リハーサルをもとに、お店をよりよくしようという意欲をもたせる。</p>	<p>各班の 計画表</p>
<p>「あきまつり」のリハーサルをしよう。</p>			
25	<p>【広げ深める】</p> <p>2 お店のあそびを学級の友達に試してもらい、感想をもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりまとあてのお店 ・どんぐりしゃてきのお店 ・どんぐりこま大会のお店 ・まつぼっくりけん玉とアサガオリースのわなげのお店 ・どんぐりマラカスとどんぐりすくいのお店 ・どんぐりやじろべえのお店 	<p>○学級を半分ずつに分け、遊びを体験する。</p> <p>○「アドバイスカード」、「できたよカード」を用意し、遊んでみて、よかったところや改善すべきところを伝えられるようにする。</p>	<p>アドバイスカード いいねカード</p>



手立て⑤：考えを伝え合う場と方法の工夫

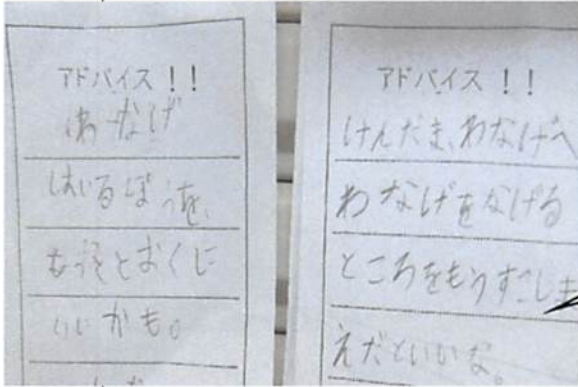
〈仮説2〉

わなげは、もっと遠くからだとおもしろい。

近い方がいいというカードと遠い方がいいというカードがあるよ。どうすればいいのかな。

わなげは、もう少し前からだといいな。

簡単コースと難しいコースと普通コースをつくらう。



10 3 今日の学習をもとに、これからの計画を立てる。

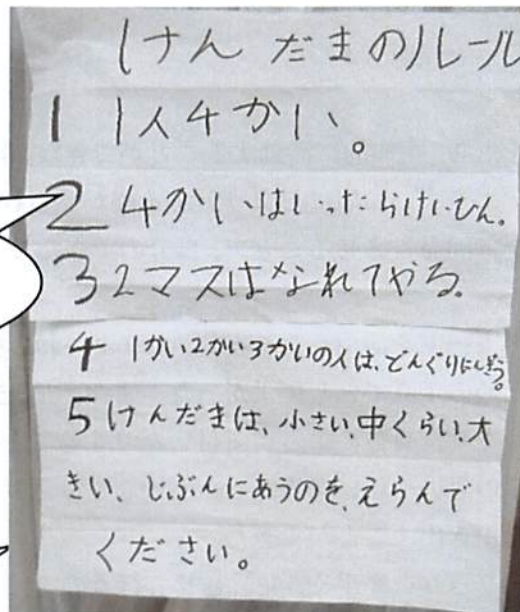
○友達からもらったカードをよく見てどのようなルールにすればよいか検討させる。

各班のルールの紙

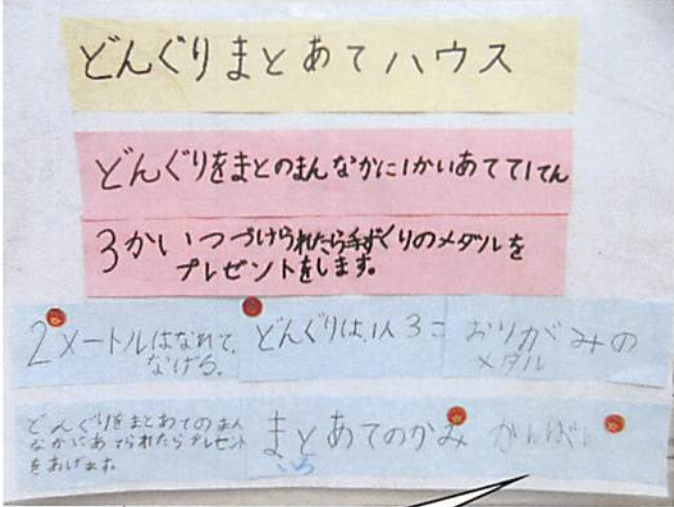
手立て②：発問の工夫 〈仮説2〉

「やじろべえ」チームの賞状がすてきだったから、ぼくたちも作らう。

簡単・普通・難しい3つのけん玉を選べるようにけん玉をつくらう。説明に入れよう。



○これまでの計画表に追記する形で、学習の振り返りもできるようにする。

3	<p>4 めあてを振り返る。</p> <p>計画表を見ながら、できたこととこれからやることを確認する。</p>		<p>各班の計画表</p> <p>合格シール</p>
---	---	--	----------------------------

次は、折り紙のメダルを作ろう。看板とまとあての紙はできたからシールが貼られているよ。どんぐりも、足りたよ。

7 成果 (○) と課題 (▲)

- 相手意識をもち、主体的に活動することができた。同学年の他グループとの交流や先生との交流を楽しみにして、よりよいお店にしようとする姿が見られた。
- 振り返りを毎回発言させることで、自分のできたことに気付いたり、友達のできたことに気付いたりしていた。
- アドバイスカードを活用したことで、よりよいお店をつくるための話し合う材料となっていた。対話的な学習のための手立てとしてよかった。また、「できたよカード」を活用したことで、友達のよいところに気付いたり、自分のよさに気付いたりすることができ、各自の気づきの質が高まった。
- 最初に児童の思いや願いを書かせたものを振り返りながら、あきまつり後の感想を書かせたので、児童の気づきを引き出すことができた。
- ▲各時間の振り返りを挙手や、発言させて行うのではなく、ワークシートも活用すると、もう少しグループではなく、一人一人の活動の様子や変容が見取りやすかった。
- ▲感染症予防のために、幼稚園生を招待してあきまつりをするができなかった。ドングリごまと松ぼっくりのツリーのプレゼントをして、手紙を返信してもらったが、実際の交流を経験させなかった。

6 成果と課題

仮説1 他者と協働し、伝え合う活動の場を工夫して設定すれば、豊かな対話のある学びができ、気づきの質が高まるだろう。

- 学級の友達と協働し、他学級に伝える活動や他学年に伝える活動を設定したことで、よりよく伝えようという思いをもち、児童がよく話し合うことができた。
- 単元の導入で児童に意識調査を行い、児童の思いや願いを大切に活動の場を設定したことで、児童が見通しをもち、主体的に活動することができた。
- 相手意識や目的意識をしっかりと確認し、意識させながら活動をすることで児童が相手の反応を予想したり、相手に合わせた表現の仕方をしたりすることができた。また、そのような表現になるようにと対話が生まれ、相手や自分の成長への気づきの質が高まった。
- リモートで交流する活動を設定したことで、感染症対策をしながら、安心して交流することができた。
- 教師が意識して児童の発言を関係付けるようにした。ハンドサインで自分の意見と「同じ」か「違う」か表現させたり、意識させたりした。また、話型を活用して自分の思いや願いを伝え合えるようにした。そうすることで、児童が友達の意見をよく聞き、新たな気づきを見つけたり、自分の気づきを確認したりすることができた。
- ▲活動の場を設定する際に、感染症予防を優先させたが、本来であれば、実際に顔を合わせて交流させたかった。画面越しであったり、手紙であったりの交流だったので、相手の反応を確認するのが難しく、相手が伝えたいことをとらえるのが難しい児童もいた。
- ▲地域の人との関わりが、できなかったもので、今後はできるようにしていきたい。

仮説2 一人一人が気付いたことを伝え合い、関係付ける活動をすれば、新たな気づきが生まれ、気づきの質が高まるだろう。

- 振り返りカードを使い、学習したことを振り返る時間をとることで、学習全体の見通しや意欲をもつことができ、主体的に学習できていた。また、児童それぞれの課題が見え、個々に声かけをすることができた。
- グループ活動をすることで、意見を交換させるだけでなく、「よりよい考えが見つけれられる」、「よりよい考えになる」ことを意識させた。教師が意識させることで、児童が話し合うことのよさや新たな気づきを感じるようになっていた。
- ▲伝え合う活動では、聞く力をもっと育て、対話できるようにする必要がある。学級指導で児童が互いに認め合う雰囲気を作り、友達が表現したことを自分の考えと比べながら聞き、それに対して反応できるようにしたい。教師も、もっと児童の気づきを引き出し、それを関係付けるような声かけや指導をすることができるようにしていきたい。豊かな対話のために、より多くの伝え合う活動の場の設定が必要である。